

## (4) らっかせい

### ア 各病害虫の防除

褐斑病

茎腐病

黒渋病

さび病

白絹病

そうか病

アブラムシ類

コガネムシ類

ヒョウタンゾウムシ類

ネコブセンチュウ

ナメクジ、カタツムリ

野ねずみ、もぐら

## ア 各病害虫の防除

### 【留意事項】

(□は総合防除計画に掲載している病害虫)

### 褐斑病

---

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発病初期から約10日おきに数回薬剤を散布する。

### 茎腐病

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 種子は無病ほ場の健全株から採る。
  - 2 数年のローテーションで輪作する。
  - 3 6月頃から発生するので、その頃からよく見回り、病株は根元の周囲の土壌と共に除去する。
- ※7～8月に多く、高温乾燥が続くと多発する。  
※病株は堆肥にしない。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発病初期から薬剤を散布する。

### 黒渋病

---

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発病初期から約10日おきに数回薬剤を散布する。

### さび病

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 病落葉は収穫後の茎葉と共に完熟堆肥にする。
  - 2 発病ほ場では早めに収穫する。
- ※子房柄にも発病し、落莢の原因となる。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発病初期から薬剤を散布する。

### 白絹病

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 発病株は、菌の発生が認められる周囲の表土と共に除去する。
- 2 数年のローテーションで輪作する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発病初期から薬剤を散布する。

### そうか病

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 病株は深く埋める。
- ※マルチ栽培は初期感染を軽減させる。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発病初期から、薬剤を散布する。

### アブラムシ類

---

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発生初期から薬剤を散布する。

## コガネムシ類

---

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 薬剤施用してからは種する。
- 2 土壌消毒する([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照)。

## ヒョウタンゾウムシ類

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 成虫を捕殺する。
  - 2 前年に被害が発生したほ場で、幼虫が越冬していると考えられる場合、6月まで無作付けで管理することにより幼虫に対する防除効果が期待できる。
  - 3 ほ場内外の除草を行う。
- ※サビヒョウタンゾウムシ、トビイロヒョウタンゾウムシなどの発生が知られている。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 薬剤を処理する。

## ネコブセンチュウ

---

・[共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

※キタネコブセンチュウが寄生する。

## ナメクジ、カタツムリ

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 野菜くずの捨て場等の発生源を除去する。
- 2 ほ場の通風や排水を良好にし、地表部を乾燥させる。
- 3 農作物の過繁茂を避け、収穫後の畑はできるだけ早期に整理する。
- 4 畑周辺の小かん木、小竹などの茂みを伐採整理し、不必要な石積等は取り除く。
- 5 畑周辺の清掃を図った上で、潜伏場所となるような濡れむしろ等を設置し、誘引捕殺する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#) [【ナメクジ】](#)・[【カタツムリ】](#)

- 1 粒剤は雨が降ると有効成分が流亡してしまうので、天候を見極めて活動直前の夕刻に処理する。
- 2 ハウスや温室内では、2～3日間はかん水がかからないようにする。残効期間は短い。

## 野ねずみ、もぐら

---

・野ねずみ [農薬登録情報](#)

殺そ剤を使用し、春期繁殖前の2～3月に共同で大面積を防除する。この場合、穴をもれなく探し、投入する。

・もぐら

もぐらは、土の中のミミズやコガネムシの幼虫などをエサとしている。土の中を掘ってこれらのエサを探してできるのがもぐらのトンネルである。もぐらのトンネルには、ほぼ毎日通る本道(生活道)とたまたまエサの匂いを感じて探しに行くときにできた支道(探餌道)がある。トンネルを潰して、復旧していれば本道と判断できるので、この場所に捕獲器を設置する。

(捕獲)

- 1 もぐらの本道に捕獲器を仕掛ける。本道は、田畑なら畦畔に多く、草原ではその縁辺や樹木の多い部分、垣の下などに多い。そのような場所の火山状の土の盛り上がりを見つけてスコップで掘ってみると、斜めに下方に走っているトンネルがあり、それに沿って深く進むと、やがて水平に走るトンネル(本道)に達する。そこで捕獲器が入るだけの土を取り去り、その土をスコップで細かくつぶし、石や小枝などを取り除く。この際トンネルよりも少し深く掘り、ここに捕獲器を仕掛け、さきに細かくほぐしておいた土をかけ引金板とすれすれになるようにする。
- 2 円筒タイプの捕獲器の場合は、底が地面に少し埋まるぐらいに設置し、周囲のすき間ができないように土を入れ込み、動かないように固定し、上から土をかぶせる。1頭獲れても、また獲れることがあるので、数日同じ部分で続けてみるとよい。
- 3 本道が見つげにくい場合は、土手のように土の盛り上がった新鮮な側道に仕掛ける。この土の盛り上がりを踏んでおき、数時間後～翌日、つぶされた土手が再び盛り上がっていたら仕掛ける。

4 手の臭いが土や器具につかぬようにするため手袋をはめ、素手では一切触わないようにする。

(音響によって追い払う)

1 風車からの動力により、畑の土中に音響を伝える装置がある。そのような装置を利用するか、工夫する。